

## 主題：三一の神が三部分から成る人に命となる

メッセージ 17

成長して円熟へと至り、生ける神の家である召会の究極的完成としての新エルサレム、  
命の都となる

聖書：ヘブル 11:10, 16. マタイ 16:18. 啓 21:2-3, 9-11, 18-20. エペソ 2:20-22.

I ペテロ 2:4-5. I コリント 3:9-10, 12. ヨハネ 14:1-12, 23

- I. 神は召会を建造するとき、新エルサレムを建造しています。わたしたちは成長して円熟へと至り、召会の究極的完成としての新エルサレムとなる必要があります——マタイ 16:18. ヘブル 6:1前半. 11:10, 16. 啓 21:2-3, 9-11, 18-20. エペソ 2:20-22. I ペテロ 2:4-5. I コリント 3:9-10, 12. ヨハネ 14:1-12, 23:
- A. 成長して円熟へと至るために、わたしたちは何ものにもまさって心を守らなければなりません——ヘブル 6:1前半. 箴 4:20-23. マタイ 13:18-23:
1. 第一に、神はわたしたちの心が柔いことを願っています。柔らかいことが意味するのは、心の意志が主に対して服従的であり、従順であり、頑固でなく、反逆的でないことです——II コリント 3:3. エゼキエル 36:26. 詩 86:11。
  2. 第二に、神は、わたしたちの心が純粋であることを願っています。純粋な心が意味するのは、その思いが特に神につけられている心です。それはまたその感情が神に対して極みまで純粋で単純である心です。それはまた神だけを愛し、神だけを欲します。それは神以外に、他の愛、傾向、願いをもちません——マタイ 5:8. II コリント 11:2-3. II テモテ 2:22。
  3. 第三に、神は、わたしたちの心が愛する心であることを願っています。愛する心が意味するのは、感情が神を愛し、神を求め、神を渴望し、神を慕い求め、神と個人的で、愛情に満ちた、私的で、霊的な関係を持っている心です——マルコ 12:30. 雅 8:6-7. ヨハネ 21:15-17。
  4. 神は、わたしたちの心が平安であることを願っています。平安である心が意味するのは、良心にとがめがなく、罪定めがなく、責められるところのない心です——使徒 24:16. I ヨハネ 3:19-20。
- B. 神の働きの目標は、新エルサレムを得ることです。わたしたちの主は今日のダビデであり、わたしたちを神の建造のための造り変えられた材料として用意します。わたしたちの環境すべてにおける困難は、わたしたちを打ってわたしたちを対処し、わたしたちを神の建造のための生ける宝石として用意します——I ペテロ 2:4-5. I コリント 3:12前半. 列王上 6:7. 参照、歴代上 6:31-32。
- C. 新エルサレムは、神と人と天のミングリングです。新エルサレムが天から出て神から下って来ることは、新エルサレムが天の要素で満たされており、完全に天的であることを暗示します——啓 21:2-3, 22. エペソ 1:3. 2:6. 創 28:17:
- D. 新約の啓示全体によれば、クリスチャンの働きの唯一の目標、また究極の結果

は、新エルサレムであるべきです。それは召会の究極的完成であり、また神の永遠のエコノミーの究極の目標です：

## II. わたしたちは、新エルサレムの状態を見ることによって、建造された召会の状態を見ることができます。新エルサレムは召会の究極的完成です：

A. 建造された召会には、新エルサレムのように神の臨在があります——エゼキエル 48:35. 啓 21:3. 22:3：

1. 神と小羊が新エルサレムの宮であることが意味するのは、神と小羊であるご自身が都の中心となるということです。言い換えると、神は都と共におられ、都には神の臨在があるということです—— 21:22。
2. わたしたちはすべての聖徒と共に建造されるとき、神の臨在を持ちます。またわたしたちは単独であるときはいつでも、直ちに神の臨在を失います。
3. わたしたちはこの原則を保持しなければなりません。神の臨在があらゆる事柄の基準です。
4. わたしたちはすべてのことにおいて神の臨在に触れるなら、神が宮としてそこにおられ、神の建造がわたしたちと共にあることを見るでしょう。論争、議論、批判はわたしたちに神の臨在を失わせません。神の臨在は完全に聖徒たちの間にある一と調和にかかっています。
5. 神の臨在が、新エルサレムの中心です。ですから、わたしたちは召会において神の臨在を持たなければならないのです。わたしたちは宮としての神を持たなければならないのです。

B. 建造された召会には、神の支配があります：

1. 召会が建造されているなら、それには神と小羊の御座、神の支配があるようになります—— 22:1。
2. わたしたちはある召会における聖徒たちが建造されているかどうかを知りたいなら、彼らの間に神の御座、神の主権があるかどうかを見なければなりません。

C. 建造された召会には、命の流れと供給があります：

1. 新エルサレムには、御座から流れ出る命の水の川があります。また川の両側に命の木があって、十二種の実を結び、その実は毎月みのります—— 1-2 節。
2. 建造された召会には、命の水があって人々の渇きをいやし、人々が潤されるようにします。また命の木の实があって、飢えた人々を満足させることができます。

D. 建造された召会には、光があります：

1. 新エルサレムにおいて、神の栄光が光であり、小羊がそのともし火です—— 21:23. 22:5. 参照、エレミヤ 2:11。
2. 建造された召会において、聖徒たちを通してキリストの中で表現される神が光です。わたしたちは建造された召会の集会に行くとき、照らされるのを感じます——ヨハネ 8:12. マタイ 5:14. 詩 73:16-17。

E. 建造された召会には、神と人とのミングリングがあり、死と復活を経過してい

ます：

1. 新エルサレムの四つの側それぞれに三つ門があること、すなわち、三かける四が十二であることが暗示するのは、三一の神が被造物である人（四という数字は被造物を表徴する）とミングリングされているということです——啓 4:6。
2. 聖なる都の十二の門が十二の真珠であることが表徴するのは、死に打ち勝ち命を分泌する復活のキリストを通しての再生が、都への入口であるということです—— 21:21。
3. 門を通過して都の中へと入る人はだれでも、三かける四の産物、すなわち、神と人とのミングリングの結果、またキリストの中で死と復活を経過した新創造とならなければなりません——Ⅱコリント 5:17. ガラテヤ 6:15。
4. このことが見せているのは、わたしたちはいかなる天然なものも、地からのいかなるものも召会の中へともたすことはできないということです。真珠の門は人のすべての天然を閉め出します。
5. わたしたちが天然なもの、人の努力からのもの、「巧妙な」もの、人の手腕や手段から生じるもの、あるいは十字架を経過していないものをもたすときはいつでも、わたしたちはまだ終わらされておらず、神は出る道をわたしたちに提供することができません——参照、Ⅱコリント 4:7-8。
6. 召会を建造することにおいてすべてのものは、十字架を経過しなければならず、キリストの中になければならず、神と人とのミングリングでなければなりません。これが新エルサレムへの入口、召会への入口です。この入口の性質と一致するものだけが、神の建造の中へともたされることが出来ます。
7. ビジョンだけがわたしたちを救い出すことができます。わたしたちは天然の思想、識別力、手腕、能力、力量をすべて十字架にもたして対処することを学ばなければなりません。これらすべてものが砕かれ、死と復活を経過し、真珠となった後、それらは神の建造の中へともたされることが出来ます。

F. 建造された召会は、神の神聖な性質で満ちています：

1. 新エルサレムにはただ一つの大通りがあります。それは純金であり、神の神聖な性質を表徴します——啓 21:21 後半。
2. 命の水の川が「大通りの中央」を流れていることが表徴するのは、神聖な命が神聖な性質の中を流れ、神の贖われた民の日常生活のための唯一の道となるということです—— 22:1. Ⅱペテロ 1:4. ヨハネ 14:6。
3. わたしたちが自分自身を完全に否み、神の性質の中に生きるときはいつでも、わたしたちの奉仕は召会の建造という結果となるだけではなく、また人々がわたしたちのただ中に来るときに彼らを神の道に導きます。

G. 建造された召会には、神の表現があります：

1. 啓示録第 21 章は言いますが、都の城壁は碧玉であり、第一の土台は碧玉であり、都の光もまた碧玉のようです（18-19, 11 節）。さらに、御座に座している方には碧玉の外観があります（4:3）。こういうわけで、都の外観は神の外観

です。

2. 新エルサレムは、人における神の拡大、また人における神の満ち満ちた表現です。召会が真に建造されているなら、召会にも神の満ち満ちた表現があります。

H. 建造された召会は、造り変える霊と、造り変えられる過程にある人々で構成されています：

1. 都の城壁は宝石で建造されています (21:19-20)。宝石は、創造されたものではなく、創造されたものが造り変えられることによって生み出されるものです。それは多くの圧迫を通しての長年にわたる構成を経過しています。圧迫、燃やされること、構成されることが、宝石へと造り変えられるために必要です。
2. 召会生活においてキリストを愛する者が造り変えられることは、手順を経た三一の神の究極的完成としての造り変える霊によって (Ⅱ コリント 3:18)、また愛する者の仲間たち、すなわち、聖徒たちを成就する働きを行なうキリストのからだの賜物のある肢体たちの協力をもって完成されます (エペソ 4:11-12. 雅 1:10-11)。

I. 建造された召会には、境界、すなわち、「大きな高い城壁」がなければなりません——啓 21:12：

1. 城壁は分離と保護のためです。新エルサレムは絶対的に神へと分離されており、神の權益を完全に保護します。
2. 神がご自身をわたしたちの中へと建造し、ご自身をもってわたしたちを構成すればするほど、ますますわたしたちは神へと分離され、邪悪な者のあらゆるものから保護されます。もし聖徒たちが召会生活において共に建造されているなら、神に属するものと人に属するもの、天的なものと地的なもの、新創造のものと旧創造のものを区別することは容易です。
3. すべての信者は、彼らの分離と保護のためにそのような大きな高い城壁を必要とします—— 17 節。

J. どうか主がわたしたちをあわれんでくださり、各地の召会が建造されているというこれらすべての状態を現しますように！